

81万人の港町・新潟

(9:20開場 10:00~12:00)

I シンポジウム「港町新潟と舟運」

報告1 川を行き交う行舟・下舟 (原 直史氏)

報告2 藩公認の舟運業者・船道 (南 憲一氏)

報告3 在郷町と舟運 (堀 健彦氏)

報告4 蒲原を航行した川舟 (中川伸一氏)

報告5 川蒸気船の活躍 (加藤 功氏)

平成17年、新潟市と新潟市・白根市・豊栄市・小浜戸町・横越町・亀田町・岩室村・西川町・味方村・潟東村・月潟村・中之口村・巻町の13市町村は合併しました。この新市域の交通は、かつては川を往来する舟運が主役でした。舟運は新市域をはじめ、越後平野各地の町・村を結び、河口の港町・新潟の発展を支えていました。舟運が果たしていた役割や、賑わいを、様々な視点から語ります。

(13:00~14:00)

II 記念講演「日本海海運の展開と新潟湊」

講師 原 直史氏 (新潟大学 人文学部 助教授)

日本海海運は、豊臣秀吉の天下統一後、伏見城(京都府)の築城などに使う材木や、大名の在京滞在費に充てる米の輸送などで活発になったといわれます。また、17世紀半ばは、従来の敦賀(福井県)回米が、西回り航路による大坂回米に変化し、さらに18世紀後半以降には北前船による蝦夷地(北海道)交易が隆盛するなど、幾つかの変革期があったといわれています。近世における日本海海運の展開と歴史的意義、日本海側唯一の港湾都市であった新潟町の特徴について、全国的視野から講演します。

(14:20~閉会16:30)

III サミット「北前船 その遺産と継承」

(参加市長)

函館市長 井上 博司氏 酒田市長 阿部 寿一氏
佐渡市長 高野宏一郎氏 坂井市長 坂本 憲男氏
敦賀市長 河瀬 一治氏 新潟市長 篠田 昭

北前船の寄港地には、河口の湊、湾の湊、入り江の湊などがあり、地理的に商品が大量に売買できる湊、荒天時にも停泊できる湊などの特徴を持っていました。様々な湊があることで、北前船の航路が保たれていました。各湊は、収益性や安全性を補い合いながら、より多くの北前船が寄港するよう競っていました。北前船の寄港地として栄えた港町の歴史を持つ6市の市長が、かつての繁栄と交流、その遺産と継承などについて話し合います。

(会場展示)

新潟市域を航行していた川舟の写真を展示し、河川交通を回顧します。

(参加定員) 400人、当日資料費 (500円)

閉会後行事 1.歴史博物館観覧(水上バス使用、参加定員70人、観覧費480円) 16:25~17:25
2.懇親会(ホテル日航新潟、参加定員20人、会費7,000円) 17:40~19:30

(応募方法等)

- 往復はがき・FAX・メールのいずれかで、住所・氏名・電話番号と、応募項目(シンポ・講演・サミット・歴史博物館観覧・懇親会)を記し、8月7日木までに新潟市歴史文化課へ。
- *閉会後行事だけの応募はできません。
- 応募多数の場合は抽選とし、応募結果を連絡します。
- 応募先・問い合わせ先
新潟市歴史文化課 〒951-8550新潟市学校町通1番町602
FAX 025-225-9309
メール: rekishi@city.niigata.lg.jp
☎025-228-1000 内線2255

●会場案内

朱鷺メッセ 2階 スノーホール
新潟市万代島6番1号
☎025-246-8400
駐車場は有料です。

●交通

- ・新潟駅からバス「佐渡汽船」行き約10分
- ・新潟駅からタクシー約5分
- ・新潟駅から徒歩約20分



●関連事業

合併記念展

「新潟の舟運～川がたなく越後平野の町・村～」

古くから水系で結ばれてきた旧合併市町村や周辺地域の、独自性や関連性のある資料を展示します。

- ・会場/歴史博物館(みなとびあ)
柳島町2-10 TEL025-225-6111
- ・会期/7月15日~9月3日
(月曜日、祝祭日の翌日休館)
- ・観覧料/一般600円、大・高校生400円、
中・小学生200円